

2018/01/28

## 「キリストのための苦しみ」

### ■神からいただいているキリストの苦しみとは何か

「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。」（ピリピ 1:29）

クリスチャンになると、希望や喜びと共に苦しみも賜ります。それは、迫害や患難、肉体の苦しみや鍛錬という苦しみではなく、クリスチャンになることによって、自分の生き方を変えることを課せられたということです。たとえ良い生き方であっても、自分の慣れ親しんだ過去の生き方を変えるには、困難が伴うからです。

### ■何に目を向けて生きるのか

キリストを信じる前、私達は、見えるもので安心を得ようとしていました。それは、主に次の5つです。

お金・人の評判・何かすること・肉の快樂・人との関わり

このような世にあるものに安心を求めることを、聖書は、肉の思いと呼んでいます。しかし、これらのものを手に入れた瞬間、さらなる不安が生じて、結局は安心できなくなってしまいます。

目に見えない神を信じるということは、見えるもので安心する生き方を、見えないものに目を留める生き方に変えることを意味します。

「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」（Ⅱコリント 4:18）

私達が見えるものに目を留めるのは、不安を解消するためです。すべての人は、本質的に次のような不安を抱えています。

有限性（肉体の死）

本質との疎外（神に愛されていることが見えない）

罪責感

人は、これらの不安を取り除くために、お金、人の評判、何かすること、肉の快樂、人との関わりを用いています。お金によって十分な医療や快適な生活を得ることで肉体の死を忘れようとしたり、人から良く思われることや人との関わりを持つことで愛されていると確認したり、自分の価値を確認したり、何かに没頭することや快樂によって不安を忘れようとし

ているわけです。

ところが、見えるものを頼っても、根本的な不安を解決することはできません。私達の根底にある不安を取り除くことができるのは、イエス・キリストしかおられないのです。

「しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。」(Ⅱコリント 3:16-17)

イエス様は、十字架に架かって人々の前で死に、3 日後に復活することによって、私達に永遠のいのちを見せてくださり、イエス・キリストを信じるなら私達も同じようによみがえることができると示してくださいました。また、何の罪も犯していないイエス様があなたのために十字架に架かることによって、これほどまでにあなたを愛していると示してくださいました。そして、あなたの罪を背負って十字架に架かることで、あなたの罪は赦されていると示してくださいました。

神様に目を向けるなら、私達の不安は取り除かれ、本当の意味で自由になれるのです。

#### ■実際に神に目を向けるのは難しい

イエス・キリストのもとに、「何をすれば救われるか」と尋ねてきた青年は、自分は神に向いて生きていると思っていました。ところが、イエス様に「完全になりたかったら、自分のものを売って貧しい者に施しなさい」と言われ、悲しくなって去ってしまいました。

イエス様は、あなたの富のあるところにあなたの心がある、と言っておられます。神のほうを向きたいと願っても、この世で行きている私達は、肉の思いから完全に解放されることはなく、現実の問題にぶつかると、どうしても見えるもので安心を得たいと思ってしまうものです。その結果、変わりたい、神のほうを向きたいという思いと板ばさみになって、苦しむのです。

ペテロは、「イエス様のためならご一緒に死にます」と本気で告白していましたが、イエス様が捕らえられた時、三度もイエス様を知らないかと否定してしまいます。自分はイエス様に心が向いていると信じていたのに、実際は人から良く思われることに心が向いていたことが、ペテロ自身にも明らかになったのです。かつてペテロは、イエス様からこう言われたことがあります。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで人のことを思っている。」

ペテロは、この時こそ、主の言葉が心に突き刺さったことでしょう。自分は神のことを思っていると思っていたのに、裏切ることによって、自分のために生きていたことに気づいたのです。この時、ペテロの魂が、叫びました。「私を憐れんでほしい」と。すると、イエス様は振り返り、ただ「私はあなたを愛している」と見つめられたのです。

自分の罪が赦されたことを知ったペテロは、その後、大きく方向を変えることができるようになりました。しかし、それは、自分の中にある本当の気持ちを認め、それを捨てて、神様の方に向くという戦いであり、苦しみを伴います。これがキリストのための苦しみです。

この苦しみは、本当に神に心を向けた時に取り除かれます。神様に心の向きを変えない限

り、私達は苦しいままなのです。

聖書の原語で、神様に方向を変えることを、「シューヴ」あるいは「メタノエオー」と言います。ところが、多くの聖書が、この言葉を「悔い改める」と翻訳してしまいました。しかし、「シューヴ」にも「メタノエオー」にも、後悔して改めるという意味はありません。

いくら悔い改めても、神のほうに方向を変えなければ、何の意味もありません。イエス様を裏切ったユダは、自分の行いを後悔しましたが、イエス様のもとに立ち返りませんでした。彼は、方向を変えず、自らの命を絶ってしまったのです。

神様が私達に求めておられることは、悔やんだり、反省したりすることではなく、神に方向を変えることです。

「あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」(ルカ 15:10)

ここでイエス様が語っておられるのは、「ひとりの罪人が神に方向を変えるなら、天で喜びが沸き起こる」ということです。神様が望んでおられることは、反省して、「ごめんなさい」と言うことではなく、あなたが人生の方向を変え、神に立ち返ることです。イエス・キリストを信じると、神様はそのように私達を教え導かれます。そうしなければ、私達が抱えている不安は消えないからです。

#### ■方向を変えるために神が取る手段

私達が神に方向を変えることができるように、神様は、患難を静観するという方法を取られることがあります。患難とは、神が与えるものではなく、私達が見えるもので平安を得ようとすることによって生じる嫉妬や争いによって生まれるものです。この時、私達が祈り求めても、神様は、あえて助けることをなさらず、静観なさることがあるのです。聖書は、「求めなさい、そうすれば与えられます。」と教えています。祈り求めても助けが与えられないのなら、いったい何が与えられるのでしょうか。それは、神に方向を変える生き方です。

患難に遭った魂が求めているものは平安です。私達の魂は、平安を求め、神に方向を変えることを願っていますが、肉の思いがそれを邪魔します。そこで神様は、患難を静観することによって、私達の心が神に向くのをじっと待ってくださるのです。神の静観は、一時的には苦しいものですが、私達の魂が本当に求めているものをくださるためのものなのです。

「あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません。そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていました。「わが子よ。主の懲らしめを軽んじてはならない。主に責められて弱り果ててはならない。主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」

(へブル 12:4-6)

主の懲らしめとは、静観することによって、私達に答えを与えるということです。それは、私達を愛しておられるからにほかなりません。私達が抵抗すべき罪とは、神に心を向けていない状態のことで、原語では単数形で書かれており、様々な不道徳を表す言葉ではなく、心を神に向けていない状態のことを指しています。

「訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか。」(ヘブル 12:7)

「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」

(ヘブル 12:11)

耐え忍ぶとは、向き合うということです。祈っても答えが見つからず苦しい時、逃げ出さずに、なお患難と向き合うならば、私達は、ただ「神様、助けてください」と叫ぶしかなくなります。神が助けてくださるなら、どんなものでも受け取ろうと、心が神に向く時、私達は平安な義の実を結ぶことができます。

旧約聖書に登場するヨブは、自分の信仰が完全に行き詰った時、ただ神に助けを求めて平安を知り、神様が本気で自分を愛してくださっていたことに気づきました。また、創世記に登場するヤコブ(イスラエル)は、人を押しつけ、自分の知恵と力で富を築きあげましたが、不安に追い詰められ、命の危険までも感じるようになって、ようやく神の助けを求めて、平安をつかみました。彼もまた、自分は神に向いていると思って生きてきましたが、本当の意味で、神に向いてはいなかったのです。

## ■神に方向を変えるためのステップ

### 1. 什一返金

「十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。——万軍の主は仰せられる。——わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。」

(マラキ 3:10)

聖書は、収入の十分の一は神のものであるから神にお返しするように教えています。これが什一返金(什一献金)です。神様が什一返金を命じているのは、私達が神様に心を向けるためです。神に心が向く前の人、お金の安心を見出そうとします。それを神様に捧げることで、神に心が向くようになるのです。聖書は一貫して神を試してはいけないと教えていますが、献金だけは試してよいと教えています。それは、献金が、神様に心を向けるステップになるからです。実際に10分の1を捧げることにチャレンジした人達からは次のような証しを多く聞きます。

自分の霊的生涯が清められることに驚いた。献金くらいで自分が変わるとは思っていなかったが、本当に心の在り方が変わった。少しずつでも神に心を向けていくことができるようになった。

捧げた残りの90%を懸命に管理することができるようになった。お金を賢く使うようになった。

もっと早く什一献金をすべきだった。

本気で心を神に向けたいと願うなら、什一返金を実行してみましょう。捧げることで神様に心が向き、平安な人生を受け取ることができます。

## 2. 人ではなく主に助けを求める

つらい時、私達は、手っ取り早くそこから抜け出そうとして、人を頼ったり、快樂に逃げたりしてしまいがちです。しかし、まず「主よ、助けてください。私を憐れんでください。」と、神様に叫ぶことが大切です。イエス様は、どんなに多くの行いを積んだ人よりも、多く捧げた人よりも、「主よ、私をあわれんでください」と祈った罪人こそが、義と認められたと言われました。

神様に方向を変えようと一歩を踏み出しても、いざという時に人やものを頼るのでは意味がありません。患難が益となるには、神様に祈り求めることが必要です。

もっと早く主に助けを求めていればと後悔しないように、普段から、神様に求めることを習慣にしましょう。

## 3. 罪人であっても愛されていることを受け入れる

神様が受け入れてくださっているにもかかわらず、私達は、自分で自分のことが受け入れられません。この「罪人であるにもかかわらず愛されている自分を肯定して受け入れること」が、私達にとって最も困難を極めることなのです。

この世では、すべての人が自分はダメだという劣等感を抱いています。この劣等感を取り除くために、人から愛され認められようとして頑張ってきたので、いくら神様が、「あなたはもともと良いものだから、私の目にあなたは高価で尊い。頑張らなくても私はあなたを愛している。」と言ってくださっても、なかなか素直に受け入れることができません。自分で自分を受け入れられないのは、神様が良いというものをダメだと否定するのと同じです。実は、私達が受け入れたいのは、自分が良いと思うものであって、神様が良いと思うものではないのです。

神があなたを良きものとして受け入れていることを受け入れることが、本当にできるようになると、真の平安を手にすることができます。これが、神様にしっかり心が向いた状態です。

「そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」(ヨハネ 8:11)

姦淫の罪を犯した女性に対して、イエス様は、「私もあなたを罪に定めない」と言われました。つまり、「あなたが罪を犯していることを知っているけれど、そんなことは関係ない。私はあなたを裁かないし、受け入れる。」と言ったのです。この女性はイエス様の言葉を受け入れて、自分を肯定して受け入れることができるように変わり、その後、イエス様につき従う者となりました。

心を神に向けて、自分が変わるその頂点は、イエス様が受け入れておられる自分を受け入れることです。あなたが本当に神に心を向けることができると、自分を肯定し、自分を受け入れて愛することができるようになります。これを、十字架に死ぬというのです。十字架に死ぬとは、古い自分の生き方に死んで、あなたらしい生き方をすることです。

旧約聖書の時代、神を見た者は必ず死ぬと教えられてきました。それは、心を神に向けることで、自分の古い生き方に死ぬことを意味しています。古い生き方を滅ぼさない限り、神を見ることはできないのです。

パウロは、イエス様の十字架を通して自分たちは死ぬのだと悟りました。それは、古い生き方、見えるもので安心しようとする生き方が、イエス・キリストの十字架の愛によって滅ぼされるということです。私達はダメな自分を知っているのに、自分を責め、こんな自分が愛されるのかと疑ってしまうものです。しかし、このような考え方、そこから始まった生き方の間違い、自分でダメだと思い込んできた自分に死ぬことが、神が愛しているという自分を受け入れることであり、十字架に死ぬということであり、キリストに伴う苦しみです。旧約聖書が教える「神を見た者は必ず死ぬ」という教えは、古い自分の生き方に死んだ時、神に目を向けることができるということなのです。